

- 【取組内容①】 **「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実につながるクラウド活用」**
 ・生徒自身の考え方を学習支援ソフトで共有、それを基に協働的な学びの充実に繋げていく



【取組内容①】

3学年理科（5年研/互見授業）において
 タブレット端末を活用した授業が行われた。

まずは授業の導入部分で端末を活用して解答予測を提出。（学習支援ソフト活用）

本時の「めあて」に対する個々の考え方を共有し、後半の授業の展開を促していく。生徒個別の考え方から、他者の考え方に触れることで解答予測を見直したり、比較することで個別の学びを更に深化させていく取り組みがなされている。電子黒板にて解答予測を共有。

自分の解答の正誤だけではなく、その導き方も含め他者と協働的に考えることで、連続的な学びの確認が出来ていると思われる。

個々の解答予測に対しグループごとに、発表および振り返りを学習支援ソフトにて再度提出。

学校全体として端末を活用した授業の取り組みを推進している。端末を活用することで、授業の効率化を図ったり、瞬時に答えを確認・共有することが出来るので、他者の考え方にも触れることが容易となった。

互見授業を通して、他教師の授業内容を見るだけでなく、端末の使い方や生徒の考え方も可視化できるので、そういう機会も創出出来ているといえる。授業開始の解答予測から振り返りまでの生徒の意識変容を可視化できることは、教師のみならず、生徒間の学びにも大きく影響すると思われる。

